

# ももさと 通信

2022年  
8月1日  
第5号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



## すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>  
E-mail [mososato@galaxy.ocn.ne.jp](mailto:mososato@galaxy.ocn.ne.jp)



## 笑顔あふれる家族登園日!

### みんなで過ごした大切な時間

〜安心できるご家族とともに〜

つぼみ園長 沖殿 佳子

6月11日土曜日、今年度初めての大きな行事である家族登園日を開催しました。コロナ感染防止に配慮しつつではありますが、多くのご家族の参加があり、あちらこちらで笑顔がたくさん見られる時間となりました。

5歳児は園舎での「かかし作り」に挑戦!のこ切りを使って土台の竹を切ったり、子ども達を中心にご家族で相談し合いながら、体・お顔そして服や手・髪の毛など細部まであらゆるイメージを膨らませながら個性豊かな8体のかかしが完成!5歳児畑には完成したかかし達が並んでいます。これから、大切な野菜を守ってくれることでしょう♥

一方で、3・4歳児さんは、体育館でリトミックやゲームで大いに盛り上がりました。ヨーイドンでパパ・ママを応援したり、親子でのふれあいリズム、パパチーム、ママチーム対抗のゲームでは大人もついつい本気に(笑)。特に、ラーメン体操は大盛況!心地よい汗を流しながら身体をたくさん動かしました。

帰りのお集まりでは全員が合流。まずは5歳児による「かかしパレード」でみんなにご挨拶。あまりの素敵さに会場から一気に歓声が上がっていました。お話は「三匹のコブタ」。狼役を5名のお父さんに演じて頂きました。急なお願ひにも快くお引受けいただき、みなさん狼になり切ってくださいました。役作りに奮闘してくださいましたお父さん方に子ども達も大喜び。とても楽しいひとときでした。

ご家族同士が交流できる良い機会となり、横のつながりの大切さを改めて感じさせて頂きました。また、子ども達の成長をこれからも一緒に確認させて頂き、共に喜び合える園でありたいと思えました。これからもどうぞよろしく願ひいたします。

# 法人設立30周年を迎えるにあたり 無認可施設「ひまわり園」創設前後

来年度（2023年度）は社会福祉法人桃郷が設立し30周年が経ちます。また、法人設立以前に、現在の「ひまわり園」の前身である無認可施設「ひまわり園」が岩出町（現岩出市）東坂本の地でスタートしたのが、1988年（昭和63年）です。「温故知新<sup>おんこちしん</sup>」、過去は未来へとつながります。今回は、無認可施設「ひまわり園」誕生前後について、関係者の方々にお話をいただきました。社会福祉法人桃郷が次のステージに向かう道筋を皆様方と一緒に考えたいと思います。

出席者 尾坂 康子さん（元無認可ひまわり園保育士） 広島県在住のためZoomでの参加  
小西 優子さん（無認可ひまわり園第1期生保護者）  
松下 喜美代さん（無認可ひまわり園第1期生保護者）  
田中 秀樹さん（元盲学校教員、理事）  
福田 文子さん（元保健師）  
船木 栄子（元保健師、常務理事）  
敷本 弘子（統括部長）  
司会

司会：おはようございます。来年度、桃郷が設立されて30周年になります。現在、職員が130名程いますが、ひまわり園の立ち上げのことを知らない職員が多く、もう一度、今までの歩みをこの一年をかけて振り返ろうということで、この企画となりました。よろしくお願います。私は元橋本市の保健師で退職後桃郷に就職し7年目になります。

福田：元岩出市保健師です。退職後、農業をしています。船木さんには保健

師としてお世話になり教えて頂きましたが、今は何もしていないので、心苦しいです。

船木：小西さん、松下さんに引つ張られながら、田中さんと一緒に、子どもの幸せのために、福田さんとも一緒に保健師としての活動を歩ませていただき今日に至っています。

田中：社会福祉法人一麦会の副理事長で、法人全体を支える役割をしているほか、和歌山高齢者生活協同組合の理事長、また、かつらぎ町を中心に、ひきこもりを支援するNPO法人「より

みち」の理事長として、粉河で町づくりが人を支えるという思いで日々活動しています。

尾坂：現在は、広島県福山市にある児童発達支援センター「ひかり園」園長をしています。30周年という歴史を感じています。皆様と話せることを期待しています。

小西：尾坂先生との出会いが原点です。和歌山市東部地区に住んでいます。当時、尾坂先生が「こじか園」からひまわり園に変わって行くということについて行きました。8年前に市内支援学校の介助員として、ひまわり園の卒業生との関わりもある仕事をしていました。退職後、現在は小学校不登校児の支援員をしています。

松下：紀の川市旧打田町に住んでいます。息子が昭和61年に生まれ、2歳の時に小西さんと出会い、打田から和歌山線に乗って無認可の「こじか園」に通っていました。地元ひまわり園ができるということを知り入園しました。息子はもう36歳になりました。私は、英語塾をする傍ら、NPO法人「障害者の豊かな青年期を考える会」の代表者をしています。

司会：無認可ひまわり園ができるまでをお聞きます。発達がゆっくりな子どもたちを見て、保健師としてどう感じていましたか。

福田：就職したのが1981年（昭和56年）。保健師として子どもの発達、

療育のことを知らないまま現場に出て、頼れるのは船木さんから先輩保健師でした。当時、岩出町（現岩出市）では、

早期発見・早期療育ということで乳幼児健診を行っていましたが、発達のことを具体的に知る機会がなく、健診をするものの発達についてよく分からなく、船木さんを中心に町の保健師や関係者で1986年（昭和61年）に「那賀郡豊かな子どもたちの発達を支える会」を作り、子どもの発達を学ぼうと勉強会を行いました。その当時大津方式という取り組みを知り、どこからか実際に赤ちゃんを連れてきて勉強会をしたこともありました。勉強する中で、子どもの見方、発達の押さえ方もわかってきて、お母さん方に少し遅れがあると言ったものの、「じゃ、どうしたらいい」「どこに行けばいい」と保健師として、もやもやとした気持ちがあつてありました。児童相談所に行き発達検査をしても、いまいちピンときませんでした。1987年（昭和62年）、岩出市で発達検査を中心にした発達相談事業を始めましたが、検査を受けてもフォローする場がない中で、発達検査を受けてもらって、発達はこうですよというしかない環境が心苦しく、ただレットテルはりだけの健診をしているのではないかと悶々とし、健診を受けるお母さん方の気持ちを思うと「本当にこれでいいの」と夜も眠れない保健師としての悩みがありました。

船木：福田さんが言われるように健診をしても虚しさだけが残り、「なんで





座談会の様子

健診する？」と言う気持ちになりました。早期に発達の遅れが分かっても、受け皿がなく、お母さんも悩ませることとなりますので、皆で子どものことを一緒に考えようということで、那賀郡の保健師が集まり発達について勉強会をしました。また、和歌山市に「じか園」ができたのも刺激になりました。発達を支えなければいけないとい

う機運ができ、全障研の会員や生活協同組合などの団体に支えていただきました。勉強会をすると、発達のことが分かってくるので意欲が出てきて、今から考えればよく頑張ったと思うことが一杯あります。ふり返ると、尾坂さんの確かな保育目標があったから、私たちもついていけたと思います。

**田中**：無認可ひまわり園が開園するまでに、岩出地区公民館で遊びの教室や土曜保育がありました。無認可施設を立ち上げるとするのは困難なことが多いりましたが、那賀地域に困っている子どもが一人でもあれば、始めようかということ、プレハブを建てての活動が始まりました。その当時、那賀郡（岩出市、紀の川市）の保健師は力強い活動をしていた印象があります。私は盲学校に勤めていて、小さい子どもにも対応する中で、乳幼児健診の遅れを感じていました。また、「子どもの発達を支える会」での月1回の活動で、子どもたちは変わってきたことが確信につながり、毎日活動すればどれだけ変わるかとの思いから、活動を進めてきました。ふり返れば、単独でできたのではなく、保健師、教員、作業所職員、何よりも当事者である保護者と力を合わせ、また思いを寄せた運動の中で作られてきたものと思います。

**司会**：当時、資源や環境が整わない中、実際に子どもを育てられていてどういう悩みがありましたか。

**小西**：当時、現在社会福祉法人一麦会理事長の山本耕平先生が発達相談員で、息子は多動で攻撃性が強く、それを先生が確に判断して下さり、自分としては納得してほっとしたこともありました。分からないよりも分かったほうが進みやすいかなと思いい、「違う違う」じゃなく、「そうなんや」「じゃどうしよう」という気持ちになりました。親が発達の遅れを早く受け止めるのも、早期発見・早期療育という点では分岐点だと思えます。保健師さんや周りの方々の何とかしようというエネルギーを受け止める私たちも大きなエネルギーが必要でしたが、船木さんをはじめ、当時の周りの大人が情熱をもって無心にやってくれることで、親として私たちがもついていたこうと思え、救いを求めていた自分が、障がいという枠を超え精神的に支えられ、親としてそこにかけるしかないという思いになりました。時には、発達相談員の方から断定的に言われ、親は真つ暗な気持ちになることもありましたが、そこをフオロし寄り添ってくださる保健師さんらがあったことで親は支えられました。

**松下**：私は障害児施設に通所することに否定的なことを言われる環境ではなかったのですが、私にはそれは良かったです。発達相談を受け、障がいがあることが分かり、かえってほっとしました。初めての子どもで、「何でやる。何でやる」と思っていたことが、「ああそうか、障がいがあるからこれができなかつたんや」ということが見えてきて

納得できました。だから、こうしなければいけないと次につなげることができました。保健師さんが勉強し始めたあの頃は、気持ちがつながり、何も無い所から何とかしなければという気持ちでした。県が実施していた巡回相談という活動がありましたが、活動内容という違和感があり、だからこそ、ひまわり園の考え方にすごく納得できたところがありました。当時は、保育でお散歩をするところは皆無だったし、それは、ひまわり園と地元の保育所との差で理念の違いを実感しました。共感し合える人とのつながりで助けていただき、尾坂さんや船木さんの話を納得して聞くことができ、親として救われる思いでした。



無認可時のひまわり園園舎（プレハブ）

.....  
**司会**：船木さんが、無認可ひまわり園を立ち上げようとした決断のきっかけは何だったんですか。  
 .....

**船木**：保育は尾坂さんらに支えられ、決断は田中さんに背中を押されました。田中さんの「あとあとの給料などのお金の計算をしなくていい。給料の計算をしただけでいい」という、その強烈さが大きな方向性だったと思います。廃品回収もしなければいけないし、家も大変なことになるし、窮地に追いやられ、福田さんと「こんなしんどいこと、もうやめとけへんか」と話をしたら、田中さんから「そんなこと考えてないでやろうよ」と言われましたが、ふり返ると、支え合うものと一緒に人生を楽しみたいという思いでした。無認可ひまわり園が始まり、運営会議を私の家でしたときは、夫（現理事長）にも子守をしてもらったこともありました。保護者の方も支えられたかもしませんが、私たちも、小西さん、松下さんから保護者の皆さんや尾坂さん、田中さんに支えられたと思います。  
**田中**：和歌山は就学前の教育が遅れていたこともあり、和歌山に支えるところを作らなければいけないと思っていました。教職員組合も、発達相談員の両角正子先生から、子どもたちを支えることができるよう発達について研修をしました。また、山本耕平先生から「発達診断をしていたら下痢をする。言うばかりで、後の手立てがない。苦

しいから何とかしてくれ」と言われ、それが土曜保育につながり、「こじか園」につながったんです。しかし、那賀地方には受け皿の施設がなかったのでも、那賀郡内で保健師活動に活躍していた船木さんらに思いを相談し、そして、尾坂先生がひまわり園に行きますというところで、無認可施設ひまわり園が立ち上がりました。当時、大変失礼なことを言いましたが、その時は何とかしたいという思いで必死でした。  
 .....

**司会**：尾坂さんが、無認可ひまわり園に関わるきっかけは何だったんですか。また、当時の保育の様子はどのようなものでしたか。  
 .....

**尾坂**：無認可ひまわり園で働かせていただくきっかけは、全障研での出会いが大きかったと思います。和歌山市支部長の故上杉文代先生からは、「発達の道すじはみんな同じである」「発達には、たとえよこの発達がある」と発達の基本となる根っこ部分を教えていただきました。能力を伸ばすことだけでなく、その人らしい持ち味や人間味、内面の拡がりによこの発達であり、無限であることを学んだ時の感動は今でも忘れられません。そして、田中さんからは「実践と運動は車の両輪」という熱い思いを語られ、ひまわり園で働くことを見据えての働きかけだったような・・・今はそう思います。無認可時のプレハブは、当初水道も電気もなく、どうしたらという不安がありま



(右) 福田さん (中) 船木常務 (左) 田中理事

したが、ほっとけないという気持ちでした。プレハブはワンルーム、公園もないという「ないないづくし」でしたので、希望を二つ言わせていただきました。一つは床材をヒノキにすること、ヒノキだったら子どもたちが走り回るところんでも柔らかい素材です。二つは、園庭に芝生を植えてほしいということでした。この二つお願いしたところ、多くの方の協力があって叶えていただきました。1日の保育の始まりは、田中さんがプレゼントしてくださった古いリヤカーで、道路を挟んだガソリ

ンスタンドへ行って水をもらうことでした。水を確保してからお迎えに行き、そして、パワフルな子どもたちが多かったのでも、子どもたちのパワフルをプラスに変えたかったので、お散歩を保育のメインにすることにしました。何もない所だったので、リヤカーに子どもを乗せ、私が引っ張りパートの先生が押してください、田んぼのあぜ道をとにかく皆で走りました。それが保育といつていいかわかりませんが、そういうことを毎日毎日重ね、半年たった頃、水道も電気もつき、そこから保育が広がりました。毎日、水遊びをたっふりし、真つ裸で泥んこ遊びをしました。何もないので、ゆつくりとたっふりとゆつたりとやっていたことと、保育士みんなが集まって相談すること、子どもたちが発達する力になつていたと思います。子どもたちもお友だちを意識したりする中で、少しずつ育つていくと実感できたので励みにもなりました。田中さんから「保育は保育だけど、給料は自分で稼げ」、「給料はもらえないんですか」（尾坂）「そうや、無認可は厳しいから」と言われました。廃品回収をしたり、夏祭りのバザーをしたりと自分の給料を少しは稼いできました。「水も何もないところではない」という気持ちにならなかつたのは、草の根運動を実践していた職員や関係者の方々の姿があったことと、「保育の部分を担当チームの一員」であるという共同体で取り組んでいるという安心感があったからでした。





(右) 小西さん (左) 松下さん

そして、保育所や学校ではできなかった子ども一人ひとりに寄り添った実践ができるというワクワク感はとても大きかったです。「発達の道すじはみんな同じである」、一人ひとりの子どもたちは、今どきのあたりの道すじを歩んでいるのか、子どもの姿からひも解いていく過程はとても楽しいものであり、子どもの気持ちを理解できた時の愛おしさはかけがえのないものでした。

司会：尾坂さんのお話を聞くと、今のひまわり園の保育の原点ですね。原点を作ってくださいということがよく分かりました。

船木：尾坂さんのプログラムは、私は保育の七不思議でした。一般の保育所が敬遠しがちな、水遊び、泥遊び、お散歩を軸にし、それが一日の保育の位置づけにありました。そして、ピアノなどの生演奏、一般の園ではテープで流すところを、本物のピアノの音がすると子どもが寄ってきます。本物に触れないとだめということを教えて頂きました。尾坂さんのプログラムは、そういうデイリーでした。子どもの成長には欠かせない「遊び」という保育の基礎を考えていただきました。

司会：保護者の方は、無認可でお金がない時代だったので、保護者活動で色々なことをしなければいけなかったと思います。どのような苦労をされましたか。

小西：巾着を作ったりバザーをしたり、給食当番もありました。当時は、先生が一生懸命されてるので、保護者もできる限り先生を支えようという気持ちでした。うら若きお母さん方が廃品回収をして、業者に量り売りをする段取りもしました。子どもたちが先生方に支えられているから、せめて、自分たちもやれることはやろうというプラスのエネルギーに変わりました。家で悶々としているよりも、給食当番をしながら、子どもたちが楽しんでいる姿を見ることで、親も頑張れます。保育の原点という点で、尾坂先生を見ていつも感じることは、いつも変わらない。

いつも安定されていて、保育にかける情熱や信念を表に出すのではなく、火が消えないような情熱をお持ちで、若い先生なのにリヤカーを引く、それは、誰にでもできることではなく、散歩することの大切さを実践してくださいました。あぜ道をリヤカーで引くひたむきな姿、おしとやかな先生なのに、どこにそんなエネルギーがあるのか、そこに尾坂先生の信念が垣間見え、その後ろに保健師さんやいろんな人が関わってくれて、それぞれの力の集結が大きなエネルギーになりました。息子も結婚して1歳半になる子どもがいますが、孫が、水を触り、土を触り、石を投げているのをじっと見守っているところは、ひまわり園の大事なところを受け継いでいるんだと感じています。遊ぶのではなく、「遊びきる」という力を引き継いでいます。孫の姿を見て、息子も成長しているなあと思います。

松下：今になったら、全部いい思い出ですが、「先生が子どもの療育に専念できるように、私ら親で少しでも運営資金を稼がなよう」というのが、小西さんをはじめ、親の思いでした。皆さんの関わり方を見てると、支援学校の先生、保健師など職業を持ちながら、ひまわり園を運営されている気持ちですごく伝わり、私たちもできることはやっていこうと思っていました。保育は月曜日から金曜日、土曜日に廃品回収があり、アルミ缶とスチール缶をゴミ袋に入れ、「アルミ缶とスチール

缶の分別が発達障害とどう関係があるのかな」と思ったこともありました。廃品回収業者で車のバックも覚えましたが、当時は、しんどかったけれども、廃品回収もバザーも、親同士の集まりになり、そのあと話し合いができるのがすごく大きかったです。親同士が繋がって一緒に話をするから子どものことが見えてくる、廃品回収の作業も親との交流ができ、「実はね」「そんなあったん」「みんな苦労してるんやな」と親同士のことをお互い知れたことが大変良かったです。みんなが同じ方向を向いて廃品回収などをしながら、それぞれの家が色々な問題を抱えていること、また悩んでいることを話し合うことで、作業はしんどかったです。何か楽しみがありました。自分とひまわり園という1対1の関係ではなく、親みんなの塊りがひまわり園で子どもを育てるという関係、親も含めて全員頑張っていくかといかない、苦しみ以上にそれ以上のものがあつたからできたと思います。給食当番の時も、「こんなに保育してるんやな」と見ることができると、「帰ってきたんよの声」が聞こえたり、「帰ってきたんやな」と思うし、しんどいけど、いつもは見えない子どもの姿が見えるということではおもしろかったです。いろんなことで運営が成り立ち、頭で発達を理解するのではなく、生身の子どもの姿を見えたことは良かったです。そういう意味で、スクールバスの送迎は、親が見るのはその場面だけということ



尾坂さん

ろで、すごい大事なことを見落として  
いるのではないかと思います。迎えの時に先  
生とのちよつとした会話がなくなるこ  
とは、便利さの陰で失くしているもの  
が多いのではないかと……。今だか  
ら言えるのかもしれませんが、経験し  
てきた私にとっては、親同士の話、出  
会いや思いを深める時間が削られてい  
るのかなと思います。ひまわり園があ  
った、岩出市東坂本の前の道を通ると  
今でもキュンとして、当時は文句ばか  
り言っていたかもしれないが、貴重な  
体験をさせてもらったんだなと思いま  
す。

**司会：**いい話を聞かせていただきまし  
た。

**小西：**スクールバスで補足させていた  
だきますが、私は支援学校のスクール  
バス介助員を4年間経験しましたが、  
お迎えの時に、新1年生の保護者の方

が帰らず、子どもを送っていくバスが  
出ても、ずっと話し合っているのは、  
ひまわり園の卒園生の保護者ばかりで  
した。そこで、同年齢や異年齢の親同  
士のつながりができます。スクールバ  
スという利便性のなかでも、熱心、一  
生懸命というひまわり園が大事にして  
いることは引き継がれているように思  
い、力のあるお母さんがいるなどと感  
じました。

**司会：**無認可施設ひまわり園への行政  
の支援はどうでしたか。

**福田：**私は行政の保健師でしたが、発  
達相談を始める時もなかなか理解して  
もらえませんでした。行政に乗せてい  
くにはなかなか苦労が多かったです。  
旧桃山町は船木さんの働きかけもあり、  
理解があったので羨ましくもあり、行  
政で働く保健師として歯がゆかったで  
す。

**船木：**忘れられない言葉があります。

認可施設がほしいと県に働きかけたと  
き、当時の課長さんに「認可施設にな  
ってからの県の仕事で、無認可施設は  
無認可なので自分でするように」と言  
われました。「拾い上げていくのが行  
政の仕事ではないか」と悲しくなった  
ことがあります。でも、シンポジウ  
ム等をすれば協力的に支えてくださっ  
た部分もありました。現在のひまわり  
園を建設する際、国・県補助金のほ  
か、建設費用の一部として旧桃山町か  
ら1,000万円の補助金があり、老

人クラブなどの他団体が一緒になって  
協力していただきました。バザーも送  
迎のことも小西さんや松下さんがおつ  
しやるように、無認可での運営は、強  
いつながりになりました。当時、プレ  
ハブの床がヒノキ材に代わったのは榎  
本林業さんに無料で間伐材をいただい  
たものです。

**田中：**行政には請願書や陳情書を提出  
して訴えてきたこともあり、その中で  
の怒りがエネルギーになりました。無  
認可施設がどういう役割をしたか、お  
母さん同士が信頼し、自分の子どもだ  
けでなく他の子どもも見ていると考  
えて、廃品回収もしんどいが、一緒にや  
って心が通じるといことは大事なこ  
とで、いつ会ってもその当時に戻り話  
ができます。無認可といっても事業で  
あり経営することなので、職員には知  
識が必要です。その中で、職員が見通  
しや社会を見る目が育てられていくの  
で、無認可運営を経験することは非常  
に大事なことでと思います。一麦会で

は、この前、事業所を移転するという  
大きな事業に取り組みましたが、移転  
費用の工面は職員で集めるように提案  
しました。たとえ千円のカンパでも職  
員は説明しなければいけません、そこ  
に職員の力量が問われるわけで、結局  
職員は4,5千万円を集めてきました。  
今の時代、銀行は容易にお金を貸して  
くれますが、それに頼れば、何のため  
に、誰のために、どうすればいいのか  
がばやけてしまい、目の前のことしか  
考えないようになってしまいます。既

に出来上がっている施設に就職した職  
員は、まじめで一生懸命するが、そう  
いう面で弱さがあります。どういう問  
題があつてどんな運動ができるか考  
えることが大事で、無認可運営を経験し  
ている職員は子どもと一緒に歩んでい  
くという覚悟があります。桃郷でも、  
お金(予算)を用意して使いなさいで  
はなく、事業をするときは、たとえ千  
円でも事業の説明をして職員が自ら集  
めてくるようにすることが大事なこと  
だと思います。

**尾坂：**制度が目まぐるしく変わつてい  
ます。時代は変わつても生まれてくる  
子どもたちの健やかな育ちを願う親の  
気持ちは変わりません。どこに生まれ  
ても、いつ生まれても安心して子育て  
ができる社会になりますよう、そして  
「和歌山で生まれてよかった」「○○で  
生まれてよかった」とお母さん方が思  
える地域格差のない療育支援体制が充  
実していきますよう、今後ますますの  
ひまわり園のご活躍、発展を願って  
います。

**司会：**無認可を経験した職員や保護者  
の方と、今の職員と保護者の方とは当  
然感覚も違いますが、法人設立30周年  
以降もずっと事業を続けていくために  
は、今日のお話をきっかけに、何のた  
めにこの事業が必要なのか、もう一度  
ふり返り考えていかなければいけない  
と、身の引き締まる思いです。お忙し  
い中、貴重なお話をお聞かせいただき  
本当にありがとうございました。



## ごあいさつ



2022年度も早や四半期が過ぎました。昨年度は、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、いくつかの事業所で休園や事業の縮小等を余儀なくされ、子どもたちや保護者の方々にご迷惑をおかけすることになりましたが、皆様方のご理解とご協力により2021年度を無事終えることができましたこと、心から感謝とお礼を申し上げます。コロナ禍の中、子どもたちにとって、何が最善かを問い続け最善の判断をしたつもりでしたが、次々と新たな課題が生まれ、工夫や知恵を出しながら取り組んできた一年だったと思います。

さて、昨年度は懸案であった法人の第一期中期計画（2022～2026）、「桃郷プラン」を策定いたしました。策定にあたったのは、各事業所から選出された12名の保育士・児童指導員からなる、「桃郷プラン委員会」で、職員自らの手作りによる計画です。委員会で議論を重ねる中で、まずは法人として、一つの指針となるような計画にしようということになり、職員の夢と希望が詰まったプランを策定することができました。今は、計画の立案・策定はコンサルタント会社に委託するのが主流ですが、職員が自らの将来を見据え、自ら考え熱意を持って策定に取り組んだことに大きな意義があると考えております。社会福祉事業は理念がなくてはできません。そして、その理念を実現するのは現場に携わる保育士や児童指導員たちです。「桃郷プラン」は、職員の夢、社会福祉法人桃郷の理念を叶えていく指針になるものと確信しています。

社会福祉法人桃郷は、法人設立が1993年6月、来年度はいよいよ法人設立30周年という節目の年を迎えます。障害者福祉制度は、措置制度から支援費制度、そして障害者自立支援法を経て障害者総合支援法に、また、乳幼児に関する施策は再び児童福祉法に位置付けられるなど大きく変遷してきていますが、社会福祉法人桃郷の理念は、変わることなく、子どもたちの豊かな育ちを支えています。

「すべての子どもたちに豊かな育ちを」のスローガンのもと五つの基本理念をもとに、今後も子どもたちと保護者の方々に寄り添った支援を行ってまいりますので、引き続き、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 桃郷  
理事長 船木 孝明

### ご寄付等お礼

皆様がたからのご寄付、ご寄贈ありがとうございました。  
(順不同)

紀の川市更生保護女性会桃山分会様  
和歌山県歯科衛生士専門学校様  
大塚商会様  
和遊協社会福祉事業協力会様  
ひまわり園保護者会様  
つくしんぼ園保護者会様  
つぼみ園保護者会様  
株式会社築野食品様  
カーブス様

### 第三者委員 (敬称略)

千田 弘  
藤 範みつ  
松山義弘  
福祉サービスをよくするため、苦情や不満は第三者委員にお知らせください。  
(法人事務局内：☎0736-66-8851)

### 法人役員 (敬称略)

#### ◎評議員

峰田朋子 中岡憲治  
中村博行 山名和章  
中浦秀行 家原みや子  
岩原紀子

#### ◎理事

船木孝明 田中秀樹  
藤本綾子 船木栄子  
藪本弘子 山本翔太

#### ◎監事

千田 弘 山名純一



## 桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

## 未来へ羽ばたく仲間のために ～思春期保健相談士を取得して～

私はこの3月に法人からの助成を受け、「思春期保健相談士」という資格を取得しました。この資格を取得したいと思ったのは、支援を必要とする子ども達に対して、思春期教育があまりにも少なすぎると感じたからです。そしてこの思いに至ったのはある出来事からでした。

放課後等デイサービス事業など、私の身の回りでは性に関する出来事が多発していました。その中で、これは本人だけの問題ではなく、適切な異性との接し方や性教育を伝えてこなかった私たちにも非があるのではないかと、予測できたのを見て見ぬふりしてきたのは周りの支援者ではないのかと強く感じていました。

しかし、何も知識が無い状態で伝えるにはあまりにも無謀だと感じ、思春期に関する本を読み、研修にも参加しました。ところが、自分の中で納得できるものが今一つ無く、またある講師先生に思いを打ち明けた時、返ってきた言葉が『強制不妊の方法』だったときは、旧優生保護法が見直された現在でも、支援を必要とする方への性に関する支援や助言の方法があまりにも考えられていないことに愕然としました。そして、知識だけを習得するだけでなく、子ども達や周りの人に伝えるには資格が必要だと思い、日本家族計画協会が主催する思春期保健相談士を取得する事を目指しました。

本来ならば、養護教諭や助産師、保健師が取得する資格なので、医療的知識が無い私には研修内容はとてもハードルが

高く、全ての項目を取得するのに二年を要しました。

思春期保健といっても性教育だけではなく、性犯罪・性虐待・男女の体の生理学・家庭や社会、スポーツが思春期の体に及ぼす影響・セクシャルティ教育の国際基準・ネットでのトラブルなど、思春期を取り巻くあらゆる項目を各分野のプロフェッショナルから講義を受けました。まずは性教育を学習する前に、私達は1400兆分の1という奇跡的な確率でこの世の中に生まれた事や命の大切さを伝えていくことが大事だと教えて頂きました。

三回目の研修では、実際に思春期保健相談士として活躍されている方や各学校に思春期に関する講義を行っている方とグループ討論を何度も行いましたが、まだまだ支援を必要とする子ども達への性教育が広がっていない事を痛いほど感じました。『支援学校から依頼はあるが、こういう風に伝えればいいのか、すごく悩む』とおっしゃっている方が本当に多かったです。

2023年度より文部科学省より生命(いのち)の安全教育が始まります。その中では、

- ・被害者にも加害者にもならない教育、わたしのからだはわたしのもの、誰がどこを触っていいのか自分が決めて良い
  - ・ダメダメ教育ではなく、自分の体は自分で守る選択ができると主体的に伝える
  - ・防犯教育にとどまらず、包括的性教育の中のひとつとして、性の安全教育であるべき
  - ・性教育は人権教育
- と記されています。また、どうしても女

性は受け身になる事が多い事から、思春期外来(ユースクリニック)というものが、女性のトラブルで悩んでいる思春期の子にはぜひ知ってもらいたいです。思春期専門のクリニックでは、不安や恐怖感がかかり軽減される上に、病気の早期発見や望まない妊娠の早期の相談が可能ではないかと思えます。

今後は、微力ですが少しずつ周りの理解も含め、声を上げていきたいと思えます。当初は研修を修了したら子ども達にやっとな話ができると思っていましたが、研修を終えた今は「やっとなスタートラインに立てた、これからもっと知識や方法を勉強しなければ」という心境です。まずは自分の周りにいる大人(保護者や職員)や子ども達に今回の研修で受けた事を伝えていければと思っています。

どうかかしたいという思いから早や四年。

「二度とこんな思いはしたくない、そして子ども達にもさせたくない」という強烈な気持ちで今日までの私を突き動かしてきたんだと思います。

(放課後等デイサービス事業 青空つばき管理者 高橋真伊)

## 災害福祉避難所に関する 協定を締結(かつらぎ町)

2月1日付で、かつらぎ町(中阪雅則町長)と社会福祉法人桃郷とで、災害時の福祉避難所の開設や運営に関する協定を締結しました。

この協定により、災害時、あすなる教室やつくしんぼ園を福祉避難所として開設し運営することになりました。

## 管理職研修を実施 ～メンタルヘルス対策～

さる2月22日(火)、「職場におけるメンタルヘルス対策について」と題し、村上社会保険労務士事務所 村上寿味子氏をお招きして、管理職職員を対象に実施しました。

研修の目的は、管理職職員は、職場におけるストレス要因の改善を図る立場にあり、職場のメンタルヘルス対策ではとても重要な役割を担っているからです。

職場の人間関係が良ければ、職場でのストレスは少なくなるそうです。管理職職員は、職場で一日気持ちよく過ごすために出勤したら、挨拶は自分から元気よくしてみませんか。

(法人事務局長 竹中俊和)





## 発達をみつめて

児童発達支援センター ひまわり園  
発達相談員 笠原 千愛

今年度の発達講座は、1年を通して乳幼児期全般の発達について書いていきたいと思います。1年の講座を読めば、乳幼児期全般の発達がだまかにわかる、そんな講座を目指し、桃郷発達相談員が順番につないでいきます。1年間よろしくお願ひします。

さて、第1回目は乳児期後半から1歳半ころの発達についてです。

乳児期後半は、健康的な生活を土台に生活リズムが整い、移動運動の発達にともない活動の範囲が広がっていく時期です。興味や関心に基づき自由に動ける身体となり、活動範囲が広がることで新たな物や人との出会いが可能になって、少しずつ乳児期から幼児期への移行の準備がはじまっていきます。中でも10ヶ月ころは、幼児期最大の発達の節目である1歳半ころの力を獲得するための発達の原動力が生まれる時期です。これまで親子の間でたっぷり愛着関係を育んできた子どもたち。その信頼関係を土台に自分と相手以外の第三者を共有することができはじめ、他者の行為を模倣したり、相手に物を手渡したり、相手の指さす対象を見たり、という共同注意行動が盛んになっていきます。対象に対する注意を他者と共有する共同注意の成立により、ことばの根っここの力である三項関係の力が獲得されます。同時にことばに関心をもつようになり、特定の音声特定の意味をもって自分の気持ちや事物、状況にむすびつきはじめます。また、共同注

意の成立は、子どもが他者を自分と同じように意図をもつ存在であると理解しはじめたこと、自分を他者のまなざしを通して理解しはじめたことの証明でもあります。

1歳半を迎えるころ、子どもたちは自分の意図をもち、それを表現できるようになっていきます。二足の足でしっかりと身体を支え歩行できるようになり、自由になった手で道具を操作し、身の回りのことへも意欲的に取り組む姿がみられるようになります。1歳になりたての頃は目的に直線的に向かい、ズボンの片側に両足を入れてしまつて、「うまくいかない！」なんて怒っていた子どもたちも、1歳半を迎えるころになるともう1つ穴があることに気づき、「デハナイダ！」と方向転換ができるようになります。この「デハナイダ」に基づく思考や行動様式が獲得されることも1歳半ころの大きな特徴です。自分の力でできたことを親しい大人に認めってもらうことが何よりの自信となり、ますます「自分のことは自分でしたい！」と気持ちをおくからませ自我を誕生させていきます。また、ことばがコミュニケーションの手段となり意図を伝えられるようになるのもこのころです。ことばによって、誰が聞いてもわかる意思表示が可能になる中で、子どもたちは相手に受け止めてもらう事の喜びを重ねていきます。同時に思いを受け止めてもらえない場面を経験することにもなります。はじめはなぜ受け止めてもらえないのかわからず、激しいだこねとなります。しかし、そうした経験の中で、自分と相手は異なる意図をもつ存在であることに気づき、少しずつ相手の意図と自分の意図を調整する力をつけていきます。相手を意識することは自分への理解を深めていくこととなり、ますます自我をたくましくしていくことにつながっていきます。

## 社会福祉法人 桃郷

### ■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つばみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

### ■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

### ■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

### ■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河1535番地3	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

### ■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター			
	〒649-6222 和歌山県岩出市岡田649番地2	☎0736-67-8891	☎0736-67-8892
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

### ■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

# 新規採用職員の自己紹介

こたにみく  
**小谷未来**

☆所属 放課後等デイサービス事業  
あすなろつばさ児童指導員

☆趣味、好きなこと  
音楽が大好きです！バンドのライブにも行きます。

☆意気込み・抱負  
子どもたちと過ごす放課後は、毎日楽しく、大好きです。この子どもたちが大人になった時に、「つばさ楽しかったなあ」と思い出してくれるような放課後を作っていきたいと思っています。

かりやなりす  
**仮屋成珠**

☆所属 児童発達支援センター ひまわり園保育士

☆趣味、好きなこと  
音楽鑑賞、読書

☆意気込み・抱負  
子ども一人ひとりと向き合い、寄り添えるよう心掛けていきたいです。まだまだ経験が浅く未熟ですが、子ども達との関わりを通し共に成長していきたいと思っています。

## 職員募集中(正職員・パート)

児童発達支援や放課後等デイサービスに従事していただきます。

- ①保育士資格を有し、保育士登録簿に登録されている方
- ②幼稚園教諭普通免許資格を有する方
- ③児童指導員の資格要件を有する方(教員免許取得、社会福祉士取得、教育学などの大学卒業等)

詳細は法人事務局 (☎0736-66-8851)まで

## 編集後記

コロナ禍に入り、三年目を迎えた二〇二二年度。日常的にマスクを使用するのが当たり前になりました。その中でも桃郷の理念は変わらず、日々、子ども達と向き合い、主役になれる保育に取り組んでいます。いろんな活動がある中で、どのようにしたら素敵な行事に出来るか、それぞれの事業所が工夫して取り組んできました。今回、

表紙のファミリレクリエーション。子どもたちがどんな風に友だち・職員と過ごしているかご家族に感じてもらう大切な時間になります。桃郷では、一つ一つの行事を丁寧に取り組み大切にしています。コロナ禍だからこそ見えてきた新しい保育の形や工夫、発見もあります。この経験を生かして今年度も職員一団となって、子ども達が主役になる保育に取り組んでいきます。

# 管理者からの施設紹介⑤

## 放課後等デイサービス粉河青空

管理者 鈴木智寸子

### ☆施設の概要

沿革：2003年(平成15年)4月開設  
 住所：紀の川市粉河1535番地3  
 定員：20名  
 利用者：主に支援学校に通う小学校1年生～6年生  
 活動時間：平日、学校終了時～午後5時30分  
 土曜日、午前10時～午後3時  
 長期休暇、午前10時～午後5時

### ☆目標としていること

- ・子どもたちがホッと出来る場所でありたい。
- ・いろいろな活動を通して、さまざまな体験をし、友だちと遊ぶ楽しさを知り、また来たいと思える場所でありたい。
- ・子どもたちの「～したい」という思いをしっかりと受けとめ、その思いを大切にし、保障出来る場所でありたい。

### ☆粉河青空の1日

- ・粉河青空へ登所  
支援学校(コスモス、きのかわ)に、粉河青空の車でお迎えに行きます。  
土曜日は停留所方式でお迎えに行きます。
  - ・始めのあつまり  
6年生がリーダーとなり、みんなの名前を呼んで、始まりの歌を歌います。
  - ・おやつ  
みんなが、一番楽しみにしている時間です。  
毎月一回は、クッキングをして、自分たちで作った手作りのおやつを食べます。
  - ・自由あそび  
みんなが、好きな鬼ごっこや野球、サッカー、バドミントン、折り紙といった制作など自分で選んであそびます。  
散歩やドライブ散歩として公園に出かける事もあります。
  - ・そうじ  
そうじも生活のなかで、大切な仕事です。  
モップ掛けやコロコロ(粘着カーペットクリーナー)、掃除機を使って1日使った部屋をきれいにします。
  - ・降所  
それぞれの送迎場所に分かれて車に乗って出発します。
- ◎土曜日の活動は、紀の川市西井阪にある「青空」(中高生)を中心拠点として合同で活動します。